

(別紙)

名称	海老名市温故館（旧海老名村役場）
建築年代	大正 7 年／昭和 26 年増築、同 57 年改修、平成 22 年移築
所在地	海老名市国分南一丁目（住居表示：国分南一丁目 6 番 36 号）
所有者	海老名市
登録基準	登録有形文化財登録基準 1 号該当
構造など	<p>木造二階建寄棟造^{よせむねづくりさんがわらぐき}瓦葺、外壁は下見板張^{したみいたばり}。庁舎として使用されていた際は 1 階を事務室、村長室、仕丁室^{しちょうしつ}など、2 階は議場として使用されていた。意匠的に注目されるのが玄関ポーチで、破風板^{はふいた}（バージボード）には直線で構成される幾何学的な装飾が施されており、建築の中で最もモダンな印象を与える部分となっている。明治期の郡役所など地方庁舎の面影を持つ、神奈川県内最古の現存する役場遺構。大工棟梁は藤井熊太郎。</p> <p>大正 7 年の建築後、関東大震災の際にも倒壊はせず、昭和 15 年に町制施行後、増改築を重ねながら 41 年まで町役場として使われた。</p> <p>現在は郷土資料館として、1 階に考古資料、2 階に民俗資料を展示している。</p>



▲ 建築当初の頃の海老名村役場



▲ 2 階小屋組み（現在）



▲ 1 階展示風景（現在）



▲ 2 階民俗展示室（移築完成直後）